

# 教育提言

田中健藏 福岡学園理事長

平成25年版高齢社会白書によれば、わが国の高齢化率は昨年よりも0.8%増の24.1%まで上昇した。平成72年には39.9%に達し、2.5人に1人が65歳以上、4人に1人が75歳以上になると予測している。

また、口腔は摂食、嚥下、消化、呼吸、構音、味覚と日常生活を営む上で必要となる多様な機能を有しており、QOLの向上にも大きな役割を果たしている点も忘れてはならない。

国際的に目を向けてみると、アメリカではハーバード大学を始め、14の歯科大学がSchool of Dental Medicineの名を改め、中国の歯科大学は口腔医学院に変更している。

科、耳鼻咽喉科、小児科などの医科専門診療科を充実させ、医科と歯科の医療連携を学ぶにふさわしい環境を整備している。さらにキャンパス内の介護老人保健施設や介護老人福祉施設では、高齢者の介護に関する理解を深め、口腔ケアや口腔診査を体験する実習を実施し、これからの高齢社会の医療を担う口腔医学のスペシャリスト育成を目指している。

歯科界においても高齢社会への積極的な対応が求められる時代になった。増加が見込まれる全身疾患を抱える受診者に対し、安全で安心な歯科医療を提供するために、歯科医師は全身の状態や疾患の有無を正確に把握し、管理する能力が必要となる。

福岡歯科大学では、十数年来「歯学から口腔医学へ」をモット

「教養・態度教育」、「関連医学教育」、「専門歯学教育」の三つの柱

を基本として、高度な歯科医学知識や医療技術とともに、内科、外科、耳鼻咽喉科などのさまざまな歯学と関連する医学について、臓器別・疾患別に教授している。

に、口腔を臓器の一つとして捉え、全身の健康との関連を重視した「口腔医学」の学問体系の確立・育成に取り組んできた。新たな展開に向けた第一歩として平成25

年4月には学部学科を「歯学部・歯学科」から「口腔歯学部・口腔歯学科」に改称した。

臨床実習施設の福岡歯科大学医科歯科総合病院では、歯科各専門診療科とともに内科、外科、眼

口腔と全身との関わりについては周知の通り、例えば歯周病が糖尿病、脳梗塞、心筋梗塞、早産などの原因や誘因になると、多く報告されている。全身の健康を守るという観点から口腔の健康を保持増進することは極めて重要で、意義深いものと考えられる。

「健康長寿を支える「口腔医学」確立へ

を基本として、高度な歯科医学知識や医療技術とともに、内科、外科、耳鼻咽喉科などのさまざまな歯学と関連する医学について、臓器別・疾患別に教授している。

卒業生等の一般開業医に対しても、口腔医学の理念に基づいた生涯研修プログラムを実施し、資質の保持・向上を継続的に支援している。

歯科医療・歯科医学の進展や社会環境の変化に適切に対応し、明るく活力ある健康長寿社会を実現するために、歯学にかえて口腔医学の教育研究拠点を整備充実することは、歯科系大学において重要な取り組みと考えている。